

朱雀大路

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

平成13年2月から10月にかけて(財)京都市埋蔵文化財研究所はJR二条駅東側の発掘調査を実施しました。調査地は平安京右京三条一坊三町に該当し、平安時代には右京職という役所のあった場所です。この調査では、右京職に関連する建物や井戸のほか、その東側を通る平安京の中心街路である朱雀大路の西側溝や築地跡などを検出しました。

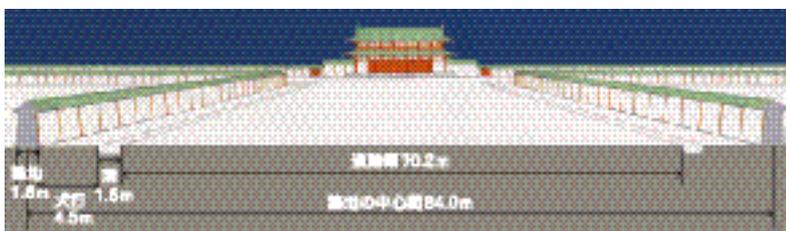
朱雀大路は、これまでも左京六条一坊(旧専売公社敷地内)や右京七条一坊(中央卸売市場敷地内)でも検出していますが、この調査では単一の調査区としては最も長い範囲(約90m)を連続的に確認できました。今回はこの朱雀大路について、これまでの調査成果を含めて紹介したいと思います。

朱雀大路 朱雀大路は平安京の中央を南の羅城門から大内裏(平安宮)の正門-朱雀門に向かう京の中心の道路です。『延喜式』には「朱雀路廣廿八丈 自垣半至溝邊各一丈八尺 垣基三尺 犬行一丈五尺 溝廣各五尺 兩溝間廿三丈四尺」と記されています。

路幅は両側の築地の中心間で二十八丈(約84m)、道路の両側にある側溝や犬行の分を除いても70mを超える広さがありました。平安京のメインストリートにふさわしい規模と言えるでしょう。



写真1 朱雀大路の西側溝と築地跡(南西から)



朱雀大路の規模

昭和57年度からの調査 京都市中央卸売市場の改築にともなうもので、昭和57・59・61年度と3次にわたり、朱雀大路や西鴻臚館こうろかんさらにその北側と、右京七条一坊の東辺部を連続的に調査しました。この一連の調査では朱雀大路の西側溝を六条から七条にかけて、断続的ではありますが確認することができました。また、朱雀大路と交差する七条坊門小路、左女牛小路の一部を検出しました。

朱雀大路と七条坊門小路の交差



朱雀大路の主な調査地点



写真2 右京職東築地跡の瓦落ち(西から)



写真3 朱雀大路と七条坊門小路交差部の護岸と橋跡(北東から)



写真4 川のように広がった朱雀大路側溝(南西から)



写真5 朱雀大路東側溝と樋口小路北側溝(北から)

部では、近くの西鴻臚館で使われていたであろう多量の瓦を用い路面を整地した跡や、朱雀大路側溝の護岸や橋の跡も見つかりました(写真3)。朱雀大路側溝の幅は、さきの『延喜式』によれば五尺(約1.5m)とされていますが、これらの調査の結果では、広いところで約6mと川のようになっていました(写真4)。

平成3年度の調査 JR丹波口駅周辺の再開発にともなう調査です。この調査では朱雀大路の東側溝や、それにそそぐ樋口小路の北側溝を検出しました(写真5)。ここでは朱雀大路側溝は中央卸売市場で検出した西側溝のように広がってはいませんが、それでも約2mほどの幅がありました。これらの調査で朱雀大路の両側の側溝

が見つかったことによって、大路の規模がほぼ文献通りであったこと、けれども側溝など細部の実態については場所によって異なることがわかってきました。

平成13年度の調査 朱雀大路の西側溝(写真1)および、右京職に関連する遺構として、井戸3基、掘建柱建物の一部、内溝、築地およびその両側の瓦落ち(写真2)、整地層などを検出しました。また、そのほかに平安時代末期の建物、井戸、溝、土壌、近世末から近代の溝や井戸、耕作関係の遺構も見つかりました。

朱雀大路の西側溝は、調査区の北端から南端の約90mにわたって検出しましたが、その西側の一部には上述の築地の痕跡と、その両側に沿って瓦落ちを確認していま

す。また、築地心の推定位置付近には南北に柱穴列が並んでいました。大路の路面については近代の溝や耕地により削平されたものと思われ、路肩の一部を確認しただけです。

おわりに 造営時には平安京の中心街路として位置づけられていた朱雀大路も、時代とともに京の中心が東へ移動するにしたがって寂れていきました。平安時代末期には京の西の縁辺となり、路面や側溝の整備もおろそかにされ、牛馬の放牧地や雨水の流れるままに川のようになっていたところもあったようです。各地点での発掘調査の結果をみても、鎌倉時代以降にはこの大路の機能はほとんど失われていたことがうかがえます。

(平尾 政幸)